

令和7年度 第3回学校運営協議会（学校関係者評価委員会）

（議事録）

日時：令和8年2月18日（水）午後2時から4時まで

会場：静岡県立下田高等学校 応接室

【参加者】委員（稲岡・土屋・高橋・山梨・天野）

校長・事務長

本校（全）（副校長・教頭）・本校（定）（教頭）・分校（副校長・教頭）

次第

I 開会

II 会長挨拶

- ・今年度最後の学校運営協議会となるため、委員の皆様は学校関係者評価をすることとなる。
- ・この結果を、次年度の経営計画に反映させていく。

III 校長挨拶

- ・入学者選抜の受付が始まったが、賀茂地区全体では1クラス減での募集となっている。「高等学校等就学支援金制度」の影響もあり、私立高校を選択するなど地域外へ進学する生徒が増加している。今後は一層の魅力化を図り、下田高校を選んでもらえるよう取り組んでいきたい。
- ・令和8年度は、賀茂地区合同説明会を11月に実施する予定である。地域の子どもたちや保護者に、各高校の特色や取組について理解を深めてもらえるよう、丁寧な説明を行っていく。
- ・今回の会議では、次年度の方針について決定し、承認をいただきたい。これを基に詳細を整理し、令和8年度第1回会議において改めて承認を得る予定である。

IV 議事 司会：会長

1 7年度取組等の報告

(1) 全日制

- ・「行きたい学校づくり」推進事業として、松崎高校・稲取高校との3校連携により、遠隔システムを活用した補講やオンライン会議を実施した。また、合同部活動については、5部活動（野球、サッカー、吹奏楽、弓道、陸上競技）で申請を行った。
- ・進路概況について報告を行った。

(2) 定時制

- ・概況報告があった。
- ・出来事や学校の様子を、週1回程度、Xで発信している。

(3) 南伊豆分校

- ・第2回学校運営協議会において、分校訪問への謝意が述べられた。
- ・令和10年度からの生徒募集停止が発表された。動揺はあったが、現場としてできることに取り組み、在校生が分校に来てよかったと思って卒業できるよう尽力していく。
- ・合同部活動で、野球、サッカーは下田高校、男子バスケットは松崎高校に参加している。
- ・12月7日餃子のレシピコンテストにおいて、「和の旨味溢れでる三つ葉を楽しむジューシー餃子」が準大賞を受賞した。
- ・1月21日の農業クラブプロジェクト発表県大会において優秀賞を受賞した。これに先立ち、1月13日に4校をオンラインでつないだ「県大会事前発表会」を実施した。

(4) 質疑応答

(全体)

意見 地域の声からは、キャンパス制の内容が十分に理解されていない様子がうかがえる。中には、「サテライト制へ移行するのではないか」といった誤った情報も見受けられる。地域に対して、正しい情報を丁寧に説明する場を設けることが必要ではないか。

意見 1年間、学校の細やかな取組を拝見し、生徒一人一人に寄り添った対応をしていただいていることに、ありがたく感じた。

(全日制)

意見 「下田をサステイナブルにするプロジェクト」に参加した。外部の情報や多様な視点をできる限り取り入れる取組は大変意義があり、今後も継続してほしい。

Q 「行きたい学校づくり」推進事業のテーマはICT活用による教育手法であるが、生徒も参加しているのか。

A 遠隔補講や県大会事前発表会をオンラインで実施しており、教員間会議でも活用している。

Q 教室にもICT機器が設置されているのか。

A プロジェクターは全教室に設置されており、ICTを活用した授業は充実している。生徒は1人1台端末を所持しており、それらを活用した授業が展開されている。また、遠隔授業の実施に向けて、令和7年に大型ディスプレイ等の機器一式が整備された。

Q トークフォークダンスは効果がある取組だと思うが、生徒の感想等を教えてほしい。

A トークテーマについては、生徒の代表者が中心となって考えている。生徒は、年齢層を越えた交流を通して心を打ち明けることができ、人と関わることの楽しさを感じたとの感想を述べている。また、参加した地域の方からは、「若者が自分なりにしっかりとした考えを持っていることに感銘を受けた」との声が寄せられている。

(定時制)

Q 三修制による卒業とはどのような制度か。

A 通信制課程の授業を活用し、定時制に在籍しながら必要な単位を修得することで、3年間で卒業することが可能となる制度である。

Q 外部の方から仕事内容を聞くことができるような取組があっても良いと思うが、どうか。

A 外部の方を招き、仕事内容等について話を聞く取組は、これまでも実施している。

Q 定時制における卒業後の生徒への対応とは、どのような取組を指すのか。

A 若者サポートステーションを活用し、卒業後の進路や生活面に関する支援を行っている。

(南伊豆分校)

意見 南伊豆町は、分校の存続を求めて県に対する署名活動を行い、約6,000人の署名が集まっ

た。地域として分校存続を強く望んでおり、署名は今後県へ提出する予定である。
意見 分校で若い生徒たちが一生懸命に取り組む姿から、農業の役割の大きさを改めて感じた。
一方、募集停止という現実を前に、分校の将来について深く悩まざるを得なかった。

Q 農芸祭に参加した生徒の挨拶が大変良かった。伊豆下田分校との交流では、プレゼンテーションの機会を設けることで発表力の向上が期待できるため、今後の検討課題としてほしい。

A 伊豆下田分校とは、年間5回程度の交流を実施している。その他、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学に加え、地域との幅広い連携を行っている。

2 7年度学校評価について

(1) 学校関係者評価について

・全日制副校長より説明があり、続いて、各校からの報告があった。

(2) 7年度取組目標と自己評価等

ア 全日制

- ・ニューヨーク研修を企画し、希望者25名が参加予定で、3月下旬に実施する。事前にオンラインで現地高校生との交流を3回行った。
- ・トークフォークダンス、夢講座、「キッズイングリッシュ」などを通して、主体的・能動的に学ぶ力の育成に取り組んでいる。
- ・働き方改革の推進に向け、球技大会や研修日を見直し、来年度の年間行事予定を調整している。
- ・信頼される学校づくりの一環として、月例の職員会議でコンプライアンス研修を実施している。

意見 下田開国博物館では、初代アメリカ駐日総領事ハリスの下田来航170年を記念した企画展が開催されている。訪問の際には、ぜひ周知・宣伝をお願いしたい。

Q 自覚がなくても、心身に不調が現れることもある。教職員の働き方改革について、メンタル面のフォローなど、悩み事を相談できる窓口はあるのか。

A 教職員を対象にメンタルヘルスチェックを実施しているほか、外部の相談機関も整備され、必要に応じて相談できる体制が整っている。

Q 部活動の活躍を見た。土日等の遠征もあると思うが、教員が対応しているのか。

A 男女バスケットボール部では部活動指導員を、箏曲部・茶道部では「文化の匠」を活用し、外部指導員にも指導に入ってもらっている。一方で、日常の練習や大会時の引率等については、基本的に教員が対応している。

意見 教員の負担軽減や、休養を含めたメンタルヘルスへの配慮が必要である。

イ 定時制

- ・事故やトラブルの未然防止に向け、ケース会議を定期的実施し、迅速に対応できる体制が整っていることから、評価をAとした。
- ・自立心を持った生徒を育てる生徒指導の充実について、朝食摂取状況の結果が目標値に達しなかったことから、今後の取組の充実が必要と判断し、評価をBとした。
- ・多様な生徒に対応した授業の展開について、AI教材を導入しているが、基礎学力テストの結果から目標値に達しておらず、改善が必要と判断し、評価をCとした。
- ・個に応じた丁寧な進路指導について、1年生から進路意識を高める取組を行っているが、進路決定の成果は現時点で十分とは言えず、評価をBとした。

意見 朝食摂取については、令和10年度から昼間定時制へ移行することで生活時間帯が変化し、朝食摂取率がさらに低下する可能性があるとの意見が出された。

意見 賀茂健康福祉センターと連携した食育講話は、朝食摂取率向上につながる取組であり、今後はがん教育とも関連付けて食の大切さを指導していくことが望まれる。

Q AI教材について、教科数と出題レベルの設定を教えてください。

A 主要5教科を対象に、AIが生徒の能力に応じた問題を出題している。1年生では活用が定着しているが、上級生では課題が見られることから、評価をCとした。

意見 学ぶ意欲を喚起する教材を導入している点は評価できる取組であり、評価をBとしてもよいのではないかとの意見が出された。

ウ 南伊豆分校

- ・「身だしなみチェック」を「さわやかキャンペーン」に改め、身だしなみや整理整頓、あいさつの確認を行ったが、遅刻者数の増加が見られたことから、評価をBとした。
- ・施設の継続的運用と新たな活用方法の検討について、全生徒が授業で施設を活用できた一方、老朽化やスマート農業への対応など整備の課題があることから、評価をBとした。
- ・地域防災訓練について、参加は一定程度あったが、さらなる向上が課題であることから、評価をBとした。
- ・ホームページやインスタグラムを多数回更新しているが、保護者への周知が十分とは言えず、情報発信の工夫が必要であることから、評価をBとした。
- ・インターンシップ先への就職に一定の成果が見られた。一方で、受入調整や市町との連携に課題があることから、評価をBとした。

意見 地域防災については、中学生は参加が求められているものの、自治会が任意加入であるため家庭の状況によって参加しにくい生徒もいる。そのような中で、避難訓練に約半数の生徒が参加している点は評価でき、評価をAとしてもよいのではないかとの意見が出された。

Q インターンシップについて詳しく説明してほしい。

A 下田市商工会を通じて受入企業へ案内を行い、紹介された企業の中から希望先を選定している。希望に合う企業がない場合には、学校が新たに受入先を開拓することもある。

3 8年度学校経営計画について

- ・各校の基本計画を説明し、質問などを受けて、承認をもらうことの説明があった。各校共通する部分は、同様に変更を加えた。

ア 全日制

- ・今回新たに加筆した部分について説明があった。(アンダーラインが変更点)
- ・ア(7)「個人情報管理及び交通安全対策(自転車運転マナー向上等)、事故対応の徹底」を加えた。4月からの自転車ルール改正を踏まえ、事故防止に向けた指導を進めていきたい。
- ・アでは、(イ)「いじめ防止に向けた組織的対応」を新たに加えるとともに、「コンプライアンス研修の充実と教職員の危機管理意識の向上」をキ(7)からア(エ)へ移した。
- ・ウ(エ)「図書館の利用促進」を加えた。県の方針も踏まえ、活字に親しむことの大切さを生徒に伝えていきたい。
- ・エ(ウ)「特別支援教育・人権教育の推進と心理的安全性に配慮した教育実践」とし、一人一人の特性や多様性を尊重した指導の充実を明確にした。
- ・オ(7)「積極的な地域との連携(探究活動、部活動等)」とし、教育活動の具体的な場面を明確にした。
- ・カ(ウ)「教職員のワークライフバランスの推進(退勤時間厳守、勤務時間インターバルの確

保)」とし、取組内容を明確に示した。

- ・キ(イ)「総務事務の集約化に伴う校務運営参画の確立」を加え、4月からの本格的な運用変更に向けた取組を明記した。
- ・「ク 本校の特色を生かしたキャンパス制づくり」(ア)「ICTを活用した学校間連携の検討と試行」(イ)「学校行事、部活動等における合同実施の検討と試行」を加え、キャンパス制への移行に向けて全学校で共通理解を図りながら推進していく旨を示した。
(全日制の改訂方針に則り、定時制及び南伊豆分校の学校経営計画を改定する。)

イ 定時制

- ・ア(ア)(イ)(エ)については、全日制と同様の内容とする。
- ・ウ(ウ)「図書環境の充実と図書館の利用促進」を加える。
- ・ク(イ)「総務事務の集約化に伴う校務運営参画の確立」を加える。
- ・「ケ 本校の特色を生かしたキャンパス制づくり」(ア)「昼間定時制への改編に向けた準備の推進」(イ)「ICTを活用した学校間連携の検討」を加え、改編に向けた取組を進めることとした。

ウ 南伊豆分校

- ・ア(ア)(イ)(エ)については、全日制と同様の内容とする。
- ・イ(エ)「図書環境の充実整備と利用促進、朝読書習慣の定着」と利用促進を加える。
- ・キ(ア)「学校行事の意義確認と精選」(イ)「業務の効率化と協力体制の強化」(ウ)「教職員のワークライフバランスの推進(休暇取得の促進、勤務インターバルの確保)」を新たに加えた。なお、休暇取得の促進については、夏季休業中における農作物の管理が課題として挙げられた。
- ・ク(イ)「総務事務の集約化に伴う校務運営参画の確立」を加える。
- ・「ケ 分校の特色を生かした他校との連携」(ア)「ICTを活用した学校間連携の検討と試行」(イ)「学校行事、部活動等における合同実施の検討と試行」を加え、募集停止を踏まえて学校間連携を検討することとした。

委員からの意見(委員から以下のような意見があった)

- ・「図書館の利用促進」については学校図書館を想定しているとの説明があり、読書の大切さを踏まえ、取組をぜひ推進してほしい。
- ・「図書館の利用促進」について、ICT化が進む中でも活字の重要性が指摘され、下田高校全体での取組を推進してほしい。
- ・(分)夏休みの勤務について、サポーター制度等を活用して対応してはどうか
- ・(分)イ(エ)では朝活動について説明があり、朝読書や基礎学力向上の取組の趣旨も共有された。今後も継続して取り組んでほしいとの意見が出された。

V 事務局より

1 学校関係者評価実施用紙(会議等用)の提出について

- *全・定・分それぞれ御記入の上、まとめて所定の封筒に入れてお送りください。
2月27日(金)までに投函してください。

2 8年度の委員について

VI 閉会